

前回部会（平成 26 年 4 月 25 日）における指摘事項

番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 ・ 事 業 者 の 考 え 方
1	<p>新施設の地下構造及び掘削工事・杭打工事の概要について、示されたい。</p>	<p>新施設の地下構造を示す図面は別紙 1 のとおりです。</p> <p>ごみピットエリア（約 17m×約 30m）と水砕ピットエリア（約 8m×約 24m）が、地下構造（現地盤高より深さ約 5m）となります。</p> <p>掘削工事については、両ピット底の基礎部（既存施設の場合で厚さ 0.6～1.4m）まで開削します。開削部については、矢板による止水対策を行います。現地盤高から床付けまで約 5mであることから、矢板の自立施工を考慮し、矢板長は約 10mとなります。</p> <p>新施設の杭打工事（基礎工事）については、既存施設と同様にコンクリート杭（PHC 杭）（φ600、杭長 23m）の採用を想定しています。</p>
2	<p>工事中の止水対策の有無を示されたい。止水対策を行う場合、地下水位への影響について説明されたい。</p>	<p>地下構造物の開削時には矢板による止水対策を行います。</p> <p>矢板の深さは約 10mで、別紙 1 の地下構造物の範囲（ごみピットエリア、水砕ピットエリア）に限られます。このため、地下水の流れが矢板により一時的に遮蔽されたとしても、矢板を回り込んで移動すると想定されることから、地下水位への影響はないと考えています。</p>
3	<p>準備書では、現地盤から 5 m程度は粘土層でさらに下層まで粘土層が続くところがあるが、資料編のボーリング柱状図では、砂質層が見られる。また、周辺には河川や水田が存在している。これらを踏まえ、地下水位への影響について説明されたい。</p>	<p>御指摘のとおり、準備書の記載内容が資料編のボーリング柱状図と不整合であるため、準備書 514、515 ページの「現地盤から 5m程度は粘土層でさらに下層まで粘土層が続いている。」を「現地盤以深は砂層とシルト層の互層で、シルト層の含水量も多くなっている。」に修正します。</p> <p>ごみピットと水砕ピットの最深位置は現地盤から約 5 mで、主な地下構造物はこの範囲に限られます。河川に向かう地下水の流れがこれらの構造物で遮蔽されたとしても、構造物を回り込んで移動すると想定されることから、河川や地下水位への影響はないと考えています。</p> <p>なお、北側や東側の水田では河川水を使用しており、地下水の利用はありません。</p>

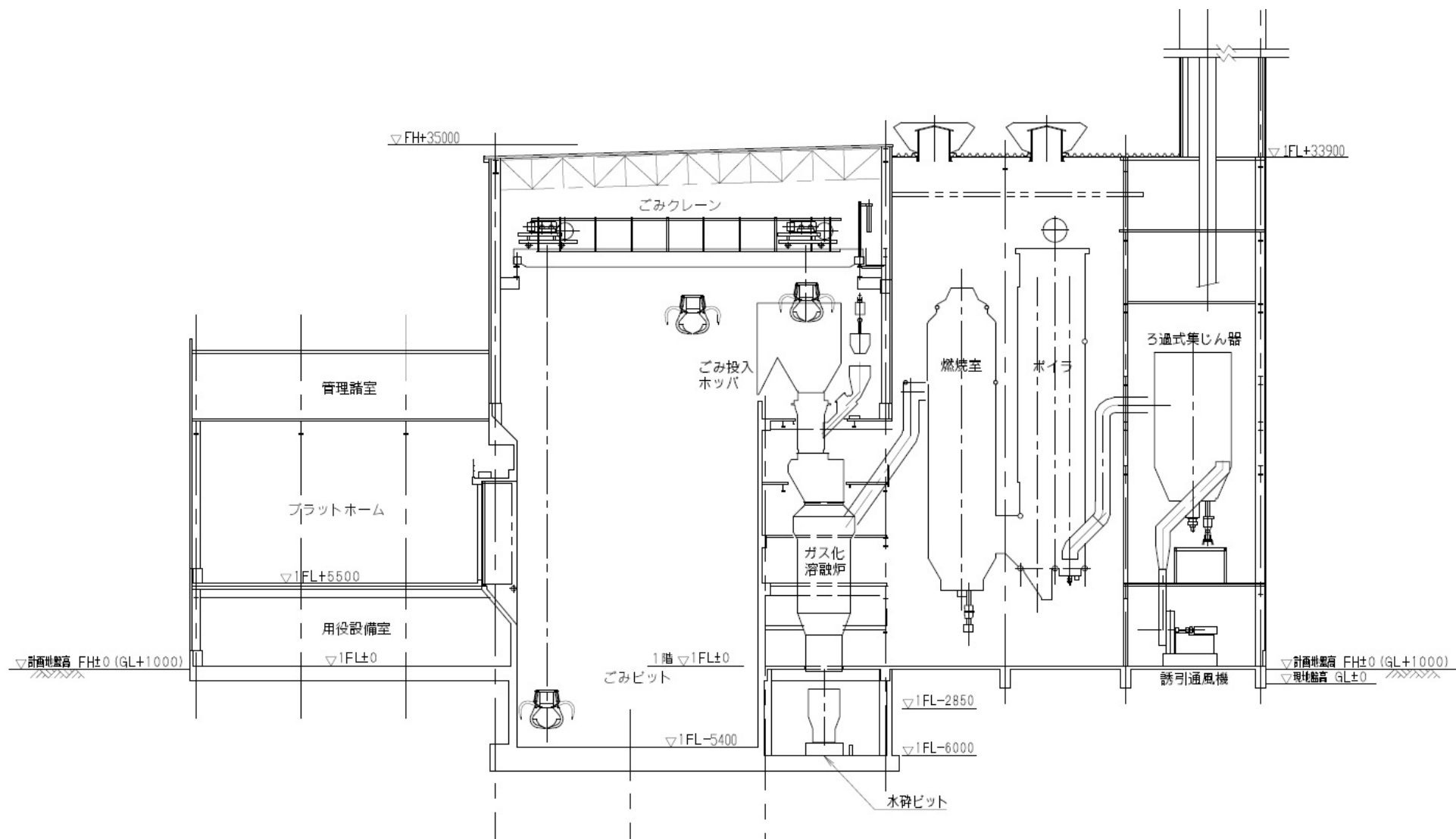
番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 ・ 事 業 者 の 考 え 方																																																																
4	工事種類別に使用する建設機械を示されたい。	<p>工事種別に使用する建設機械は以下のとおりです。 なお、月別の建設機械台数は別紙2のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="853 288 2110 879"> <thead> <tr> <th></th> <th>既設施設解体 仮設置等工事 (10～13か月目)</th> <th>土工工事 (13～39か月目)</th> <th>造成工事 (17～19、31～ 39か月目)</th> <th>プラント工事 (23～43か月目)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アースドリル杭打機</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>山留材削孔機(SMW削孔機)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>バックホウ(0.7～1.2m³)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ブルドーザー(18～20t)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>クローラーレーン(150t)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ラフタークレーン(25～50t)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>タイヤローラー(8～20t)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>マカダムローラー(10t)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>アスファルトフィニッシャー(4.6m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>クローラーレーン(300t)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>コンクリートポンプ車(90～110m³/h)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>今回、騒音及び振動（建設機械の稼働等）の予測条件において、コンクリートポンプ車が含まれていないことが判明したため、準備書 404、405、452 及び 453 ページにコンクリートポンプ車を追加するよう評価書で修正します（別紙 3 参照）。</p> <p>予測時期の設定根拠となった資料編 243 ページの騒音パワーレベル合成値、258 ページの振動レベル合成値も一部変わりますが、予測対象時期「工事開始後 17 か月目」は変更ありません。</p> <p>コンクリートポンプ車の追加に伴い、準備書 423 ページの騒音の予測結果（複合機械の影響・南側敷地境界）が「65dB」から「66dB」に変わりますが、評価結果に変更はありません。振動については、予測結果、評価結果とも変更ありません。</p> <p>また、特定建設作業騒音の規制基準値との比較にあたり、建設作業騒音を「単独機械による騒音の 90%レンジの上端値 (L_{A5})」で予測していましたので、「複合機械による騒音</p>						既設施設解体 仮設置等工事 (10～13か月目)	土工工事 (13～39か月目)	造成工事 (17～19、31～ 39か月目)	プラント工事 (23～43か月目)	アースドリル杭打機		○			山留材削孔機(SMW削孔機)		○	○		バックホウ(0.7～1.2m ³)	○	○	○	○	ブルドーザー(18～20t)	○	○	○	○	クローラーレーン(150t)		○	○	○	ラフタークレーン(25～50t)	○	○	○	○	タイヤローラー(8～20t)	○	○	○	○	マカダムローラー(10t)	○	○	○	○	アスファルトフィニッシャー(4.6m)	○	○	○	○	クローラーレーン(300t)		○	○	○	コンクリートポンプ車(90～110m ³ /h)		○	○	○
	既設施設解体 仮設置等工事 (10～13か月目)	土工工事 (13～39か月目)	造成工事 (17～19、31～ 39か月目)	プラント工事 (23～43か月目)																																																														
アースドリル杭打機		○																																																																
山留材削孔機(SMW削孔機)		○	○																																																															
バックホウ(0.7～1.2m ³)	○	○	○	○																																																														
ブルドーザー(18～20t)	○	○	○	○																																																														
クローラーレーン(150t)		○	○	○																																																														
ラフタークレーン(25～50t)	○	○	○	○																																																														
タイヤローラー(8～20t)	○	○	○	○																																																														
マカダムローラー(10t)	○	○	○	○																																																														
アスファルトフィニッシャー(4.6m)	○	○	○	○																																																														
クローラーレーン(300t)		○	○	○																																																														
コンクリートポンプ車(90～110m ³ /h)		○	○	○																																																														

番号	指摘事項	都市計画決定権者・事業者の考え方																					
		<p>の90%レンジの上端値(L_{A5})」で予測し直し、準備書423ページの予測結果(表7.2.21)を別紙3のとおり評価書で修正します。</p> <p>これに伴い、全ての建設機械が同時に稼働するという条件で予測すると、敷地境界上の将来騒音レベルが「最大75dB」から「最大84dB」に変わりますが、規制基準値「85dB」以下であることから、基準との整合性は図られています。</p>																					
5	<p>既存施設及び新施設から発生する廃棄物の最終処分量の比較を示されたい。</p>	<p>廃棄物の最終処分量について、既存施設(平成24年度実績値)及び新施設(平成31年予測値)の比較表は以下のとおりです。</p> <p style="text-align: right;">(単位: t/年)</p> <table border="1" data-bbox="891 536 1778 833"> <thead> <tr> <th></th> <th>既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)</th> <th>新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>焼却灰</td> <td>5,201</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>飛灰処理物</td> <td>1,842</td> <td>2,051</td> </tr> <tr> <td>耐火レンガ等*</td> <td>15</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,058</td> <td>2,091</td> </tr> </tbody> </table> <p>※炉の補修工事に伴い発生するもの。</p>		既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)	新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)	焼却灰	5,201	0	飛灰処理物	1,842	2,051	耐火レンガ等*	15	40	合計	7,058	2,091						
	既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)	新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)																					
焼却灰	5,201	0																					
飛灰処理物	1,842	2,051																					
耐火レンガ等*	15	40																					
合計	7,058	2,091																					
6	<p>既存施設及び新施設から発生する温室効果ガス排出量の比較を示されたい。</p>	<p>温室効果ガス排出量について、既存施設(平成24年度実績値)及び新施設(平成31年予測値)の比較表は以下のとおりです。</p> <p style="text-align: right;">(単位: t-CO₂/年)</p> <table border="1" data-bbox="891 1015 1778 1414"> <thead> <tr> <th></th> <th>既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)</th> <th>新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力消費(a)</td> <td>2,672</td> <td>6,205</td> </tr> <tr> <td>燃料の燃焼(b)</td> <td>82</td> <td>7,529</td> </tr> <tr> <td>廃棄物の焼却(c)</td> <td>22,419*</td> <td>18,417</td> </tr> <tr> <td>小計(d)</td> <td>25,173</td> <td>32,151</td> </tr> <tr> <td>発電量削減分(e)</td> <td>—</td> <td>14,354</td> </tr> <tr> <td>合計(=d-e)</td> <td>25,173</td> <td>17,797</td> </tr> </tbody> </table> <p>※新施設と同じ算定式で算出した値</p>		既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)	新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)	電力消費(a)	2,672	6,205	燃料の燃焼(b)	82	7,529	廃棄物の焼却(c)	22,419*	18,417	小計(d)	25,173	32,151	発電量削減分(e)	—	14,354	合計(=d-e)	25,173	17,797
	既存施設(ストカ炉) (平成24年度実績値)	新施設(直接溶融炉) (平成31年度予測値)																					
電力消費(a)	2,672	6,205																					
燃料の燃焼(b)	82	7,529																					
廃棄物の焼却(c)	22,419*	18,417																					
小計(d)	25,173	32,151																					
発電量削減分(e)	—	14,354																					
合計(=d-e)	25,173	17,797																					

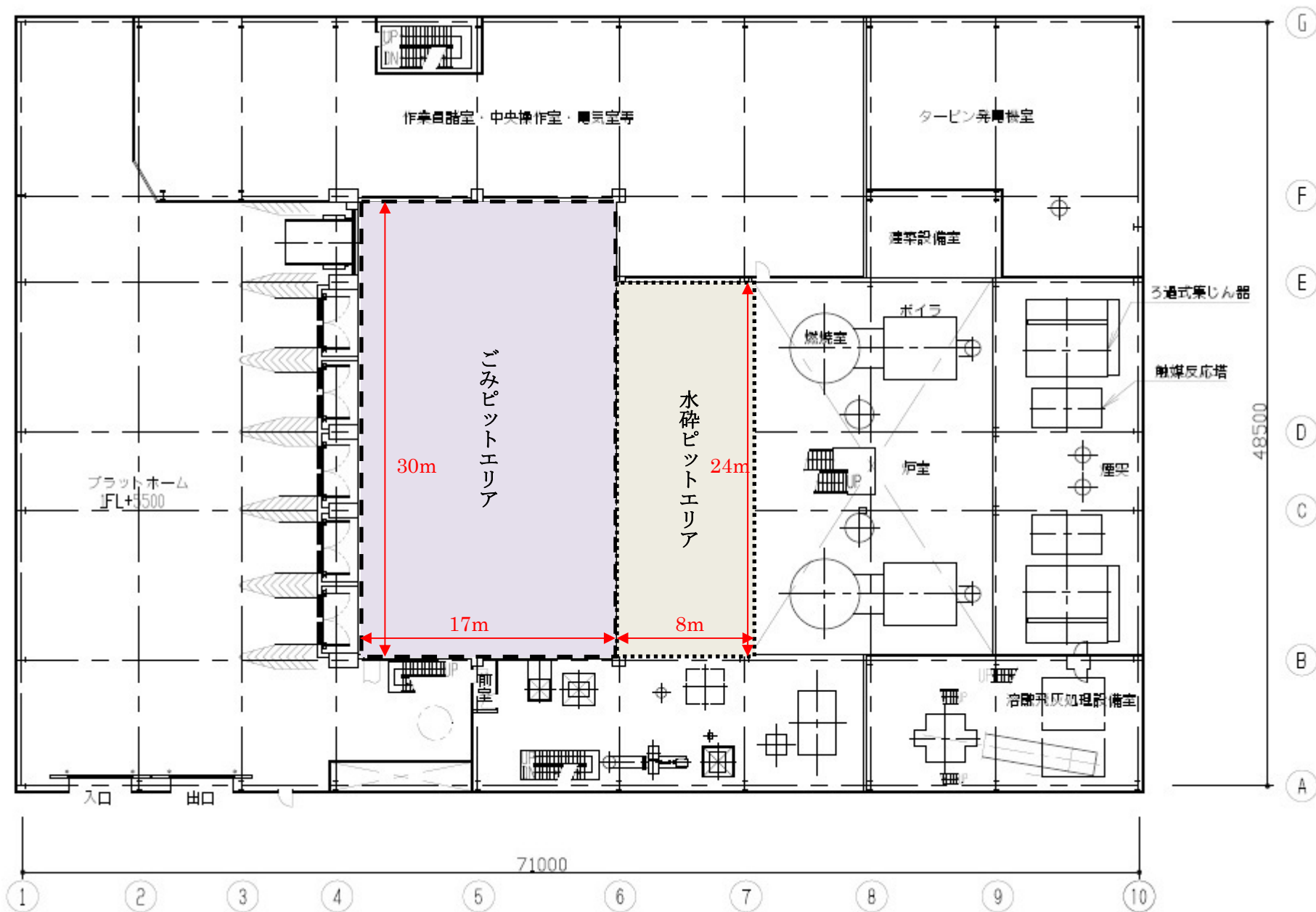
番号	指 摘 事 項	都 市 計 画 決 定 権 者 ・ 事 業 者 の 考 え 方
		<p>なお、廃棄物の焼却（プラスチック類）の二酸化炭素排出係数に誤りがあったことが判明したため、準備書 659 ページの二酸化炭素排出係数「2.55t-CO₂/t」を「2.77t-CO₂/t」に修正します。</p> <p>これに伴い、準備書 663 ページの二酸化炭素排出量「16,468t-CO₂/年」を「17,889t-CO₂/年」に、合計「30,202t-CO₂/年」を「31,623t-CO₂/年」に、温室効果ガス総排出量「30,730t-CO₂/年」を「32,151t-CO₂/年」に、削減後の温室効果ガス総排出量「16,376t-CO₂/年」を「17,797t-CO₂/年」に、発電による温室効果ガス削減量の割合「46.7%」を「44.6%」に評価書で修正します。</p>
7	<p>ばい煙の排出に伴う二酸化窒素の予測結果において、最大着地濃度点を、事業実施範囲の南東約 3.2km 地点から南東約 3.0km 地点に修正するとのことだが、コンタ図が正しいものか確認されたい。</p>	<p>最大着地濃度点までの距離は南東約 3.0km に修正しますが、準備書 369 ページのコンタ図は正しいことを確認しています。</p>

番号	指 摘 事 項	事務局の確認結果
8	<p>カヤネズミやヌマガエル等について、周辺の生息環境とのつながりを考慮して、粗大ごみ処理施設南側に約 5 m 幅の緑地帯を検討するとのことだが、生態系の委員の見解を事務局で確認されたい。</p>	<p>長谷川委員に確認したところ、約 5 m 幅の緑地帯であれば、カヤネズミやヌマガエル等の移動については、特に問題ないとのことでした。</p>

新施設の地下構造と平面図



新施設の地下構造（断面図）



新施設の平面図（ごみピットエリア、水砕ピットエリア）

騒音、振動（建設機械の稼働等）の修正箇所

（※修正箇所を下線部で示す。）

<騒音 準備書 404、405 ページ >

表 7.2.10 建設機械の騒音パワーレベル

機械名称	規格	パワーレベル (dB)	一日当りの 稼働台数 (台)	音源 位置番号
山留材削孔機	-	104	3	①
バックホウ	0.7~1.2 m ³	103	11	②
ブルドーザ	-	108	7	③
ラフタークレーン	25~50t	108	2	④
コンクリートポンプ車	二	<u>107</u>	<u>1</u>	<u>⑤</u>

注)音源位置番号は、図 7.2.8 に対応している。

出典. 日本音響学会誌 64 巻 4 号(2008) 参考資料 A(pp.243-247)

表 7.2.11 建設機械の騒音レベル

建設機械	規格	パワーレベル(dB)
山留材削孔機	-	104
バックホウ	0.7~1.2 m ³	103
ブルドーザ	-	108
ラフタークレーン	25~50t	108
コンクリートポンプ車	二	<u>107</u>

出典. 日本音響学会誌 64 巻 4 号(2008) 参考資料 A(pp.243-247)

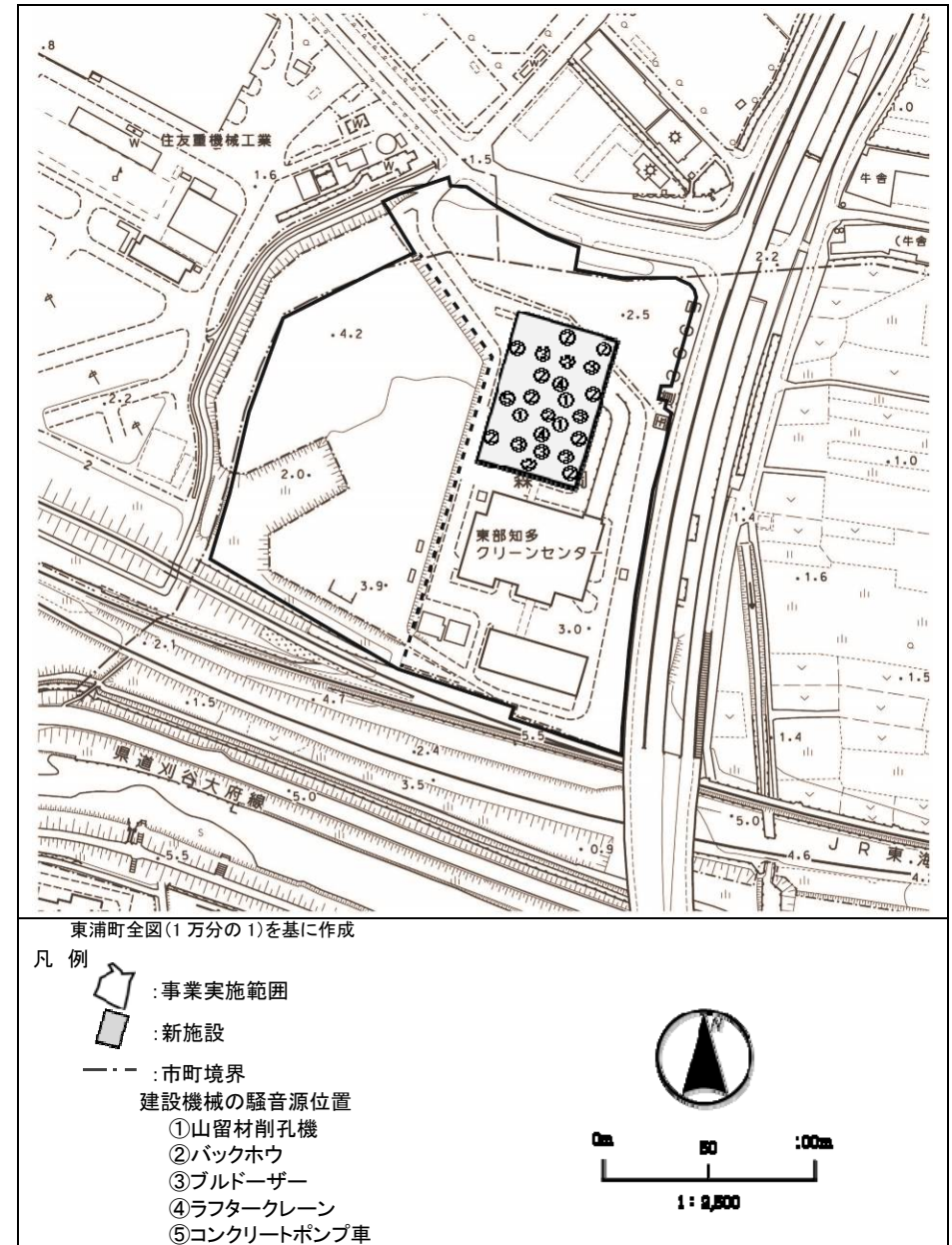


図 7.2.8 建設機械の配置図(複合機械による等価騒音レベル)